

都会の人たち (私たちの生活) 小学校第五学年用

昭和二十三年三月十一日 翻刻印刷

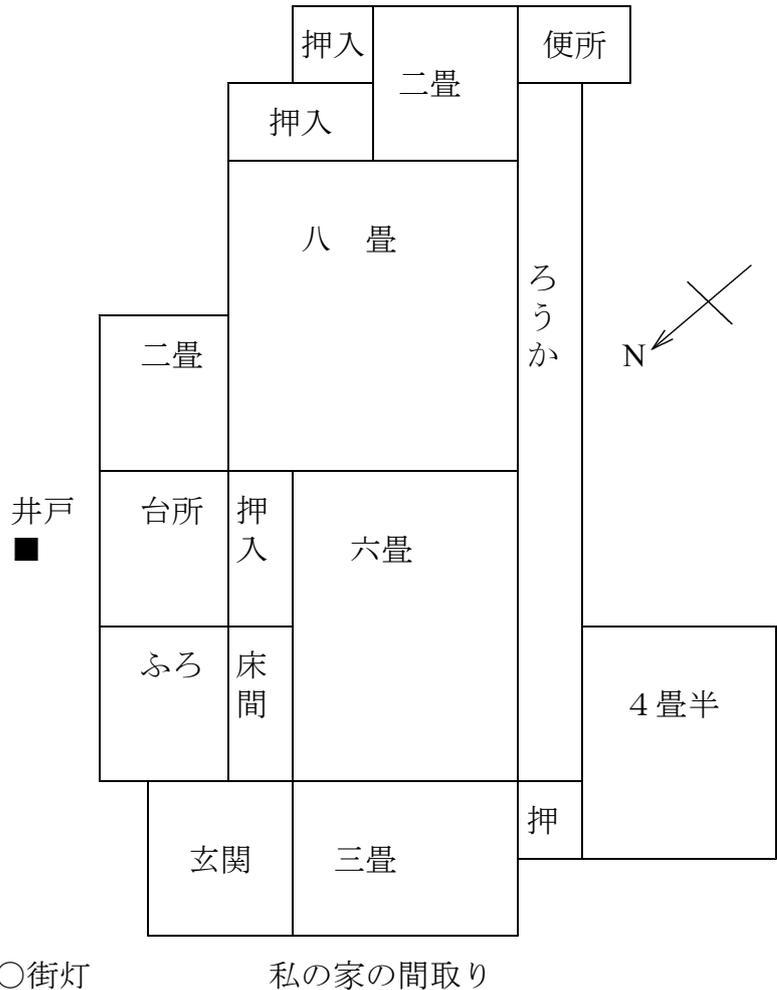
月 日 じゅん子

私の家は、ちょっとふしぎな家です。おじさんはおとうさんの家だといわれるし、おとうさんは、おじさんの家を借りているのだといわれるのです。もともとこの家は、今から二十年ほどまえ、まだこのへんがいなかであまり家のたっていないころに、おじさんがとなりの家といっしょに買われたものです。そのときおとうさんが自分で買いたいといわれたのに、おじさんが、「そんなによい家ではないから、別の家を買いなさい。それまで自由に使いなさい。」といて、とめられたのです。

となりの家はへや数も多く、庭もかなり広くてよい家です。おじさんたちが疎開したあと、ある会社の宿舎として貸したのですが、終戦後もそのままになっています。それで、疎開から帰ってきたおじさんたちは、私たちの家にいっしょに住んでいられるのです。となりの家は会社の宿舎なので、人数もふえたり、へったりしていますが、私たちの家よりゆっくりしているようです。

よその人の話をきくと、家のことでは、ずいぶん争いが多いようです。友だちや親類がけんかをしている例はたくさんあります。弟さんがにいさんの家を借りていながら、にいさんたちを同居さえさせないという例もききました。警察に争いをもってくる人も多いそうです。

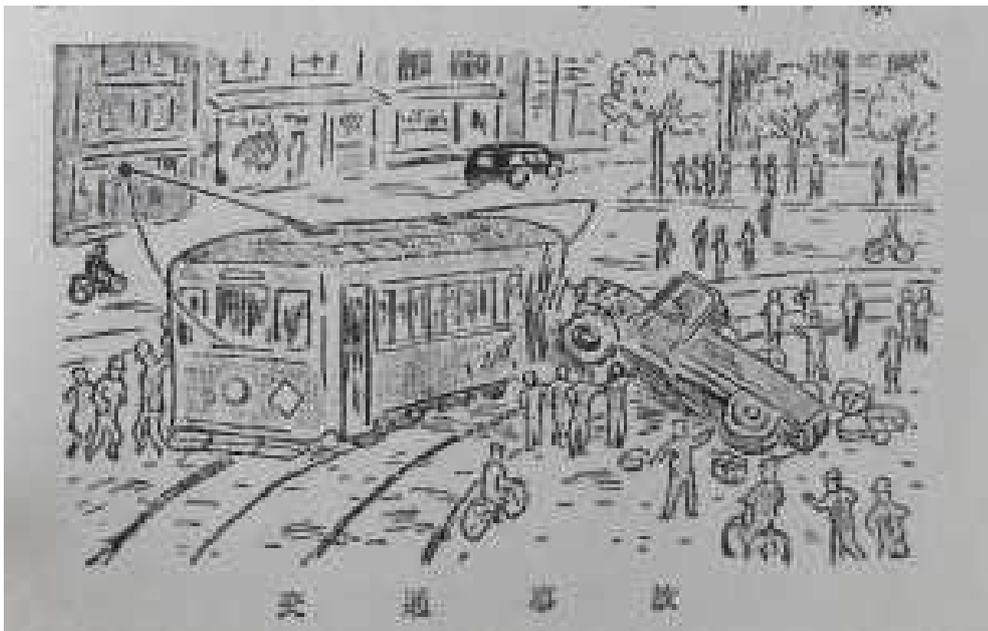
私たちの家は、平家で、八畳・六畳・四畳半・三畳・二畳・二畳です。東がわは、となりの台所とほとんどくっついており、南がわの小さい庭の無効にも



家があって、あまり明るくありません。三畳は玄関で、二畳は二つとも物置になっています。私たちの家には九人住んでいます。おじさんおばさんに、いとこのかず子さん、とし子さん、道男さん、これだけで、六畳と四畳半を使っています。お父さんお母さんに、敬一にいさんと私、この四人が八畳を使っています。としさんは中学一年、おにいさんは中朝と晩には、九人がそろって六畳で食事をしますが、ときどき、「まったく満員電車のような。」とって笑っています。かずさんは、夜は玄関の三畳で勉強したり、ねたりしていますが、ふいにベルがなるとおおさわぎです。かずさんのおねえさんのちか子さんがおよめにいかれるまでは、十人でしたから、なおたいへんでした。

おじさんは、六六ですが、会社につとめていられます。おじさんは、どんなときにもおこったことはありません。どのようなことでも、「それもよかろう。」とさんせいしてくださいます。まえからそうだったので、今でもわすれないでたずねてくる人がたくさんあります。夜はラジオをきいたり、おそくまで本を読んだりなさいます。

朝は早く起きて、近所を散歩なさいます。おとうさんは、五四で、まえにはほとんど病気をなされたことはありませんでしたが、戦争中、お役所につとめていて学校の子どもの疎開のことでむりをして働いたため、だいぶからだが弱くなりました。いそがしいときがつづいてつかれがはげしくなると、何もわからなくなってしまうのです。



それで、うちじゅうでよく氣をつけて、あまりおつかれにならないように注意しています。おとうさんも、ほとんどおこることはありません。まえには化学の先生でしたが、

今はある中学校の校長です。

小さなことでもよく考えて意見をいわれます。勉強のことをうかがうと、いつもにこにこしながら教えてくださいます。おとう

さんの一番きらいなことはきょうだいげんかです。私がいさんといいいあらそいなどをすると、注意をなさいます。おとうさんは、毎日満員の電車で、往復三時間もかかつて通勤されるので、夜はいちばんさきにねてしまわれます。このあいだ、おとうさんのおのりになった市内電車が石炭を積んだトラックと正面しょうとつをしました。

おとうさんはまんなかののっていたので無事でしたが、両方の運転手と、夜中に急にひきつけて、何もわからなくなってしまうのです。それで、うちじゅうでよく氣をつけて、あまりおつかれにならないように注意しています。

おとうさんも、ほとんどおこることはありません。まえには化学の先生でしたが、今はある中学校の校長です。小さなことでもよく考えて意見をいわれます。勉強のことをうかがうと、いつもにこにこしながら教えてくださいます。おとうさんの一番きらいなことはきょうだいげんかです。私がいさんといいいあらそいなどをすると、注意をなさいます。おとうさんは、毎日満員の電車で、往復三時間もかかつて通勤されるので、夜はいちばんさきにねてしまわれます。このあいだ、おとうさんのおのりになった市内電車が石炭を積んだトラックと正面しょうとつをしました。おとうさんはまんなかののっていたので無事でしたが、両方の運転手さんと電車の前の方にのっていた人が死にました。いきなりドシンと電車がとまると、のっていた人はみんなしょうぎだおしになり、バラバラッと屋根の上には何か落ちてきました。びっくりしてまえの方をみたら、まっくろなものがあり、運転台はメチャメチャにこわれていたそうです。

おとうさんは、トラックがむちゃをしたのだらうといわれました。乗客のためにいっしょうけんめい運転をしていた運転手さんやお客さんが、あつというまに死んでしまったことは、本当に氣の毒だと、おとうさんはくりかえして話してられました。働き手を急に失った運転手さんのおうちでは、どんなに困ることでしょう。交通局や組合でできるだけのことをするとしても、十分とはいかないだらうということです。

おとうさんは、電車はやっぱりまんなかのらなくてはいけないと、しみじみいわれましたが、私はおとうさんがまたそのようなあぶない目にあわなければいいがと、思って心配しています。

おばさんは、五六、おかあさんは、五二で、ほんとうのきょうだいです。たいへんなかがよくて、炊事も、せんたくも、買物も、みな助けあってやっていますので、おかあさんがふたりいるようです。戦後はどの家にも二家族も三家族もはいますが、

私たちの家のように、台所をいっしょにしている家はあまりなさそうです。たべものやかかりのことになると、このごろはきょうだいでもうまくいかなことが多いようです。ふたりで道路のむこうがわのあき地の畑を、五〇坪ばかりたがやしていられます。おじさんもおとうさんも私たちもてつだいますが、おかあさんたちがいちばんねっしんです。

かず子さん、とし子さんをはじめ、みんなが掃除や後片付などのおてつだいをしますが、おかあさんがたは、朝早くから夜おそくまで、仕事をしていられます。「小さい子どももいないし、家も廣くないけれど、女の用事はきりがない。」といわれます。たべものや着物のことなどは、すべておかあさんたちの考えでまります。どんな代用食でも、どんなおべんとうでも、おじさんも、おとうさんも、だれもくじょうをいいません。

うちでは、どちらも荷物を焼きませんでしたから、戦災や引き上げの親類や知り合いの人たちに、だいぶ分けてあげました。それで今は、着物、とくに下着類やくつつした・ふとん・しきふなどに困っています。おかあさんがたの夜の仕事は、そのつくろいが大部分だともいえます。おばさんやおかあさんは、昔からなんでもたんねんに手入れをして、たいせつにとっておかれたので、今役にたつものがだいぶあります。食糧もずいぶんたいせつに使っています。配給されるものは、種類や質がちがうことがおおいので、それを区別して、しまっておいて使います。

予備のお米は、大きなガラスびんに入れて、虫のつかないようにしてありますが、遅配がつづく、目にみえてへっていき、心細くなります。お米の配給がきちんとあれば、朝と晩はおかゆや代用食にして、少しずつお米をためていきます。配給の粉はさまざまですから、まぜて使います。豆などは、よいのやわるいのや、色のちがうのなどがまじってくることもあり、そんなときには、より分けて使います。にえかたもちがうし、味もちがうからです。

イーストをとっておいてパンをこねたり、代用食をつくったりする苦心はよいではありません。野菜は家の畑からもとりますが、人数が多いので、配給のうまくいかなときには困ってしまいます。知りあいの農家まで分けてもらいにいくことも少なくありません。庭のすみにいけていたり、かわかしてとっておいたりしたものを使います。ぬかや塩が不自由ですから、つけものもふだんはたべません。おさかなもそう順調にはきませんし、みそやしょうゆもおくれがちですから、おばさんとおかあさんで、「何をどうしてたべたものやら。」といって話しあわれることもしばしばあります。おとうさん、おじさん、かず子さんなどが、おつとめ

先の組合で安いものを買ってこられることもあります。

家の近くには、生活共同組合というものがあり、うちもはいつていますが、ちかごろは、なかなか思うように物が手にはいきりません。かず子さんが熱心な賛成者で、ときどき、お婆さんたちと、話しあいをなさることがあります。かず子さんは小さい子どものそだてかたを研究する所につとめていて、ふだんは、町や村の託児所や保健所をまわっていますが、農はん期などには、村の託児所のせわをしにいかれます。燃料は、どこの家でもたいそう困っているようですが、私たちの家でも、となりの家のほうの庭の木をきったり、古くなった物置などをこわして、まきをつくり、それをたいせつに使っています。そして、なるべくガスの出るときや電気の強くなるときをみはからって、にたきをします。

火なしコンロが、おかま用、おなべ用と二つもつくってあって、おかゆをにる燃料を節約したり、にたきしたもののひえるのをふせいだりします。おかゆなど、にたったところで、この火なしコンロに入れておくと、別に熱を加えなくても、どろりとしたおいしいおかゆになります。近所のうちで電氣を使う時間はたいがい一致していて、そのときは弱くなりますから、私たちの家では、なるべくそのときをさけてにたきをします。それには、火なしコンロがたいそう役にたちます。お湯をわかしてとっておくには、まほうびんを使っています。

電氣コンロやガスコンロは、まわりや下に熱がにげないように、うちがわにとたん、そとがわが木、底がいしわたの箱をつくり、そのなかに入れて使っています。これはみんな、おとうさんが考えておつくりになったのです。おふろも、燃料の関係で、特別の日にしかわかきません。ふだんは、銭湯に行くのですが、おつとめにいくおとうさん、かず子さんは、お困りです。



大正末頃の銭湯



現在の銭湯

水道は給水所に近いためか、わりあいによく出ます。場所によっては、だいぶ出が悪く、バケツなどでためておかないと困る家もあるというのに、ありがた

いことです。私たちの家では、朝と晩のごはんのときが楽しいか時間です。たいていの日には、九人がみなそろいます。そして、いろいろなおもしろい話をします。朝は、おじさんの散歩の時の

お話がよく中心になります。畑の作物のこと、お天気のこと、肉屋の犬のこと、小鳥のこと、新聞配達の子どものこと、交番のおまわりさんのことなどがあって、私たちまでおなじみになったような気がします。晩には、みんながおもしろい話をします。話がありすぎて、おとうさんとおじさん、おかあさんとおばさんやかず子さん、おにいさんととし子さんと私たち、というような組になってしまうことさえあります。政治のこと、配給のこと、電車内でのできごと、学校での行事、お店のこと、お客さまのことなど多く話されます。ときには、昔のことなどもいろいろ出てきます。私たちの小さかったときのことなどが話されると恥ずかしくて困ることがあります。

うちじゅうでおとうさんのお友だちのいるいなかの方へ出かけて、野菜やいも類などをいただいでくることも、ときどきあります。るすばんは、おじさんかおかあさんのことが多いようです。

川の上流で景色もよいので、ハイキングをかねていて、私たちの楽しみの1つです。そのときの計画は、おにいさんを中心に、私たちでたてます。いつごろの電車がすいているかということなどを、おにいさんはたいへんよく研究しています。



本は、だいたいいろいろなものがあるので、本を読むこともうちじゅうのもののお楽しみになっています。お友だちなどがみえても、せまくて遊びまわれないので、たいてい本を読んで遊びます。

ちくおんきやオルガンも、もとはありましたが、今は疎開したままになっていて、ラジオを聞いて楽しむだけです。家の人たちの楽しみを表にしてみました。

おじさん	散歩、碁、読書（政治、経済、歴史など）
おとうさん	畑づくり、写真、読書（科学、科学者の伝記など）
おばさん	買物、裁縫、日本音楽
おかあさん	畑づくり、料理、生花
かず子さん	テニス、料理、西洋音楽、映画、読書 （歴史、科学、文学などさまざま）
敬一にいさん	フットボール、植物採集、読書（科学）

とし子さん 裁縫、ししゅう、読書（旅行記、小説、植物の本）
道男さん 野球、模型の製作、ハーモニカ、読書
（科学、工作など）
じゅん子 畑づくり、裁縫、押花、読書
（動物などのものがたり）

私たちの家は、本当に満員電車です。でも、みんなが助けあっている楽しい満員電車です。

となりの家があいたら、ちか子さんたちもよんで、そこでまたいっしょにくらそうといっています。そうなったらどんなにうれしいことでしょう。

そして、おとうさんは、この家はお友だちに貸してあげたいといっています。そのかたは、九人家族で、毎日、片道三時間もかかるところからお役所にかよっているのだそうです。